

2018

履修要覧

薬学部

卒業まで使用しますので
必ず保管して下さい

薬

強く、優しく。

金城学院大学

【 学 部 編 】

I	ポリシー	
1	ディプロマ・ポリシー	学部 1
2	カリキュラム・ポリシー	学部 1
II	卒業要件単位数（詳細）	
1	卒業要件単位数（詳細）	学部 3
III	学科独自の制度	
1	試験制度について	学部 4
2	進級制限制度について	学部 7
3	薬学共用試験について	学部 8
4	実務実習について	学部 8
5	ホワイトコートセレモニーについて	学部 9
6	薬学総合演習について	学部 9
IV	科目分類番号	
1	科目分類番号について	学部 10
V	共通教育科目等の課程表	
1	共通教育科目等 課程表	学部 11
VI	専門教育科目のカリキュラム・ツリーおよび課程表	
1	カリキュラム・ツリー	学部 21
2	薬学科 課程表	学部 22
VII	教免取得に関する教育課程表	
1	中高免教職課程について	学部 25
VIII	各種資格	
1	薬剤師資格について	学部 33

1 ディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシーとは金城学院大学の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学修成果の目標となるものです。

[1] 大学ディプロマ・ポリシー

本学では、4年（薬学部は6年）以上本学に在学し、各学科が定める卒業要件総単位数を修得し、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

（知識・技能）

1. キリスト教的価値観を基盤として豊かな人間性を支える教養を身につけている。
2. 新しい時代にふさわしい専門的知識や技能を身につけている。

（思考力・実践力）

3. 身につけた知識や技能を生かし、諸問題に対処することができる。
4. 自ら問題を発見し、適切な分析と考察に基づいて解決策を見いだし、実践に移すことができる。

（コミュニケーション力）

5. 相手の意見をきちんと聴き理解するとともに、自らの考えを適切に表現し伝えることができる。
6. 発信するべき自らの意見や立場について常に考える姿勢を身につけている。

[2] 薬学科ディプロマ・ポリシー

薬学部薬学科では、6年以上在学し、187単位以上を修得し、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

（知識・技能）

1. 豊かな人間性を支える教養を身につけている。
2. 薬学の基礎科目、基幹科目さらに展開科目の履修を経て、薬学的問題に取り組む基礎能力を身に付けている。
3. 薬学の実習及び演習の履修を経て、社会並びに医療現場で信頼される薬剤師になるための薬学的知識と技能を身に付けている。

（思考力・実践力）

4. 科学的な知識と思考により、薬学を巡る諸問題を論理的に考えて解決を図ることができる。

（コミュニケーション力）

5. 薬学全般を学ぶことで、科学的な基盤に立ちながら自らの考えを適切に表現し伝えることができる。
6. 他者の立場や見解を理解し尊重したうえで、自らの意見を発信することができる。

2 カリキュラム・ポリシー

カリキュラム・ポリシーとはディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針です。

[1] 大学カリキュラム・ポリシー

1. 本学では、学生がキリスト教的価値観を基盤として豊かな人間性を支える教養を身につけるように、全学共通カリキュラムである「共通教育科目」（1～4年次（薬学科以外の学科）／1～6年次（薬学科）、必修および選択必修として30単位、ただし外国語コミュニケーション学科は22単位、音楽芸術学科は28単位、薬学科は36単位）を設置する。

具体的には、「I 建学の精神を学ぶ科目」（金城アイデンティティ科目）として「①キリスト教」、「②女性」、「③国際理解」の科目群を置き、建学の精神を具現化する。

「II 現代社会の教養の基礎となる科目」として「④教養科目」を置き、人間としてのあり方や生き方に關して考える機会を提供するとともに、社会人の基礎力を養成する。

「III 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目」として「⑤英語教育科目」、「⑥外国語教

育科目」を置き、異文化に生きる人々とのコミュニケーション手段と自文化を相対化する視点を獲得させる。同時にグローバル社会に生きるために必要な心の姿勢を身につけさせる。「⑦情報教育科目」を置き、情報化社会で生きていくために必要となる知識や技能を身につけさせる。「⑧キャリア開発教育科目」を置き、仕事や職業だけではない、人生としてのキャリアを重視した教育を行い、人生を積極的に切り開く主体性を培う。

「IV スポーツを通じて健康増進を図る科目」として「⑨S&E教育科目」を置き、生涯にわたっての健康づくりを支援する。

「V 実践から学ぶ科目」として「⑩海外研修科目」「⑪学生プロジェクト科目」を置き、実体験を通した学習の重要性を理解するとともに、能動的に学ぶ姿勢を身につけさせる。

2. 学生が教育職員免許状授与の所要資格を得られるように、「教職に関する科目」を設置する。
3. 外国人留学生が日本語運用能力の向上を図り、日本文化について幅広く学習できるように、「日本語科目・日本事情に関する科目」を設置する。
4. 学生が新しい時代にふさわしい専門的知識や技能を身につけるように、各学部・学科に「専門教育科目」を設置し、カリキュラム・ポリシーは別に定める。
5. 学生が興味に応じて幅広く学習できるように、共通教育科目および他学部他学科の専門教育科目を自由に履修できる「自由履修制度」(1~4年次選択28単位、音楽芸術学科、多元心理学科は26単位、食環境栄養学科は3単位、国際情報学科は22単位、薬学科を除く)を置き、積極的な学習を奨励する。
6. 学生が身につけた知識や技能を生かし、諸問題に対処する力を養うように、「演習科目」を設置する。
7. 学生が相手の意見をきちんと理解するとともに、自らの考えを適切に伝えることができる力を養うように、少人数クラスの「演習科目」を通じて、プレゼンテーションとディスカッションを重視した教育を行う。
8. 学生が自ら問題を発見し、適切な分析と考察に基づいて解決策を見いだし、実践に移すことができる力を養うように、授業において課題を課し、その評価を行う。
9. 学生が発信するべき自らの意見や立場について常に考える姿勢を身につけるように、「専門教育科目」、「共通教育科目」および「演習科目」を通じて積極的かつ発展的に考えるよう指導する。

[2] 薬学科カリキュラム・ポリシー

薬学部薬学科では、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

1. 学生が、良識を支える高い教養と豊かな人間性とを身に付けるように、全学共通のカリキュラムである「共通教育科目」(必修及び選択科目36単位)を通じて人文・社会・経済を含む幅広いサイエンスの知識、技能を教育する。
2. 学生が薬学分野の専門知識を修得するように、1、2年次の必修科目(16単位)として「有機化学」、「薬品物理化学」、「機能形態学」、「生化学」、「薬学概論」、「環境科学」、「分析化学」などを「基礎科目」として設置している。さらに2年次から4年次の必修科目(31単位)として、「衛生化学」、「薬理学」、「製剤学」、「医療薬学」、「生薬学」などを「基幹科目」として設置して、薬剤師、薬学士としての学識の基礎となる知識を教育する。
3. 学生が薬学分野の専門知識をより深め、あるいは専門知識をふまえてその周辺領域も含めた専門知識を修得してより高い学識を身に付けるように、2年次から6年次にかけて必修23単位、選択6単位の「展開科目」を設置して、薬剤師、薬学士として社会で幅広く活用できる応用的な知識を教育する。
4. 学生が身に付けた専門知識を活用して実践できる基礎技能・態度を体得できるように、必修28単位の「実習科目」を設置し、2年次に「化学系実習」と「生物系実習」、3年次に「物理・分析系実習」、「衛生化学系実習」、「薬理系実習」、「薬剤・製剤系実習」、5年次に「実務実習」を行って、物質の取り扱い、試験法、検査法、薬剤師業務の基本を教育する。
5. 学生が身に付けた知識・技能・態度をより実践的に活用した問題解決能力、多様な立場の人々のグループでのコミュニケーション能力を身に付けられるように、「演習科目」(必修41単位)を設置する。1年次には「基礎薬学演習」と「薬学PBL」を、また1年次から3年次にかけて「薬学セミナー(1)~(6)」を、3年次に「薬学計算演習」と「薬学TBL」を、さらに4年次に「薬学演習」、「薬学CBL」、「事前学習(1)」、「事前学習(2)」を、6年次に「薬学総合演習」を行って、様々な課題を通して問題発見・調査活動・論理的な思考・ディスカッション・プレゼンテーションの力を育成する。
6. 学生が身に付けた専門知識・技能・コミュニケーション能力・問題解決能力をより実践的に運用する能力を高める目的で、必修10単位の「卒業研究」を設置し、実験研究や文献調査研究とそれらの成果発表を通じて薬学ジェネラリスト・薬剤師としての研究マインドを醸成する。

1 卒業要件単位数（詳細）

科目名の★は必修

薬学科									
卒業要件			187 (単位)						
共通教育科目			36						
必修	金城アイデンティティ 科目	①キリスト教	キリスト教学(1) ★	2	22				
			キリスト教学(2) ★	2					
	④教養科目		倫理学 ★	2					
			心理学 ★	2					
			法学入門 ★	2					
			英語コミュニケーションA(1) ★	1					
			英語コミュニケーションA(2) ★	1					
	⑤英語教育科目		英語コミュニケーションB(1) ★	1					
			英語コミュニケーションB(2) ★	1					
			英語コミュニケーションC(1) ★	1					
			英語コミュニケーションC(2) ★	1					
			英語コミュニケーションD(1) ★	1					
			英語コミュニケーションD(2) ★	1					
			情報リテラシー ★	2					
			IT活用H ★	2					
選択必修	金城アイデンティティ 科目	①キリスト教 ②女性 ③国際理解	①～③の3テーマから2科目 選択（「キリスト教学(1)(2)」 を除く）	4	14				
			④教養科目（「倫理学」、「心理学」、「法学入門」を除く）						
			⑥外国語教育科目						
	⑦情報教育科目 ⑧キャリア開発教育科目 ⑩海外研修科目 ⑪学生プロジェクト科目 ⑨S & E教育科目から2科目選択（「スポーツ・アンド・エクササイズH」を除く）	⑦情報教育科目（「情報リテラシー」、「IT活用H」を除く）		8					
		⑧キャリア開発教育科目（「キャリア開発A」、「キャリア開発B」を除く）							
		⑩海外研修科目							
		⑪学生プロジェクト科目							
		⑨S & E教育科目から2科目選択（「スポーツ・アンド・エクササイズH」を除く）							
専門教育科目			151						
基礎科目		必修	16						
基幹科目		必修	31						
展開科目		必修	23	25					
		選択必修							
実習科目		必修	28						
演習科目		必修	41						
卒業研究		必修	10						
資格関連科目			—						
自由履修			—						

1 試験制度について

薬学科では、以下の試験を実施します。各試験の日程の詳細については、履修要覧別冊の教務関係事項スケジュール表で確認してください。

[1] 中間試験

- (1) 専門教育科目において、主に各期授業開始後 6～8回（週）目に実施される試験です。
- (2) 試験の詳細は、事前にK-PORTで発表します。
- (3) 受験できなかった場合、追試験（[大学編 I 7 試験について](#) を参照）の対象にはなりませんので、授業担当者の指示に従ってください。
- (4) 科目によって、実施されない場合があります。

[2] 期末試験

- (1) 専門教育科目において、15回（週）目に実施される試験です。試験の実施にあたっては、試験期間内試験に準じます。
- (2) 試験の詳細は、事前にK-PORTで発表します。
- (3) 正当な理由により受験できなかった場合、追試験の対象になります（[大学編 I 7 試験について](#) を参照。ただし、薬学総合演習を除く）。専門教育科目の追試験を欠席した場合は、追試験の再試験対象者となります。

[3] 再試験

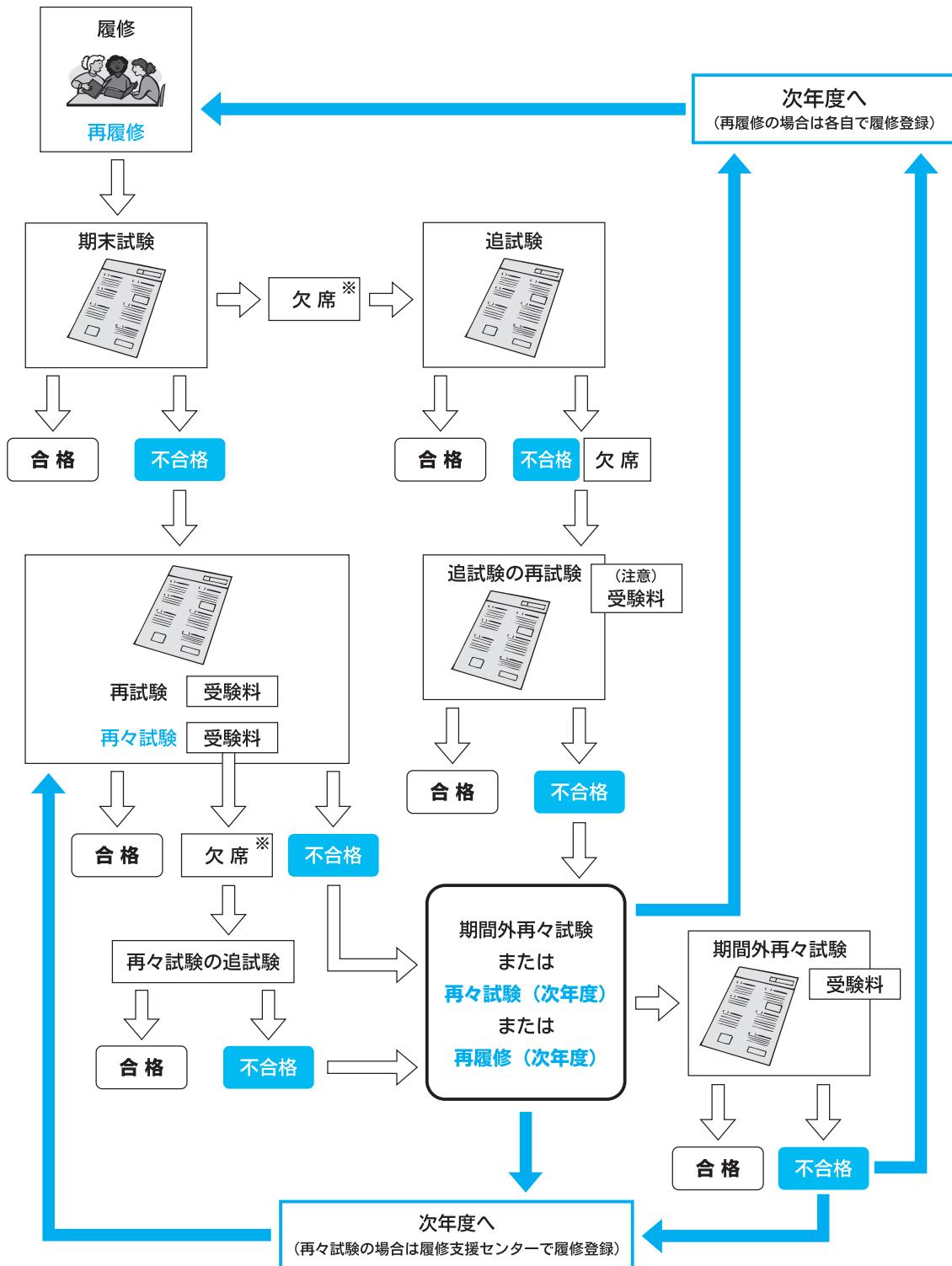
- (1) 専門教育科目（薬学PBL、薬学TBL、薬学セミナー、薬学CBL、薬学演習、事前学習、卒業研究、薬学総合演習、実験・実習および実技を除く）の評価が「F」であった場合、各期再試験を実施します。また、追試験においても同様に再試験を実施します。
- (2) 評価が「F」の学生は、全員再試験受験対象者となり、再試験を受験しなければなりません。ただし、期日までに再試験辞退願を履修支援センターへ提出することにより、受験を辞退することができ、再試験料の支払いが免除されます。
- (3) 再試験受験を辞退した者が後に当該科目の単位を修得しようとする場合は、同科目を再履修しなければなりません。
- (4) 再試験対象者および再試験時間割は、K-PORTで発表します。
- (5) 再試験料は1科目につき3,000円です。原則学納金口座から引き落としとなります（前期は9月、後期は3月）。ただし、追試験の再試験を受験する場合は、証明書自動発行機で受験料を納付し、再試験実施日から3日以内（最終日が休日の場合、その翌日）に履修支援センターへ提出してください。
- (6) 再試験を次の理由により受験できなかった場合、再試験実施日から3日以内（最終日が休日の場合、その翌日）に履修支援センターに必要な証明書を提出し手続きをすることにより、対象科目の再試験料の支払いが免除され、再々試験を受験することができます。
 - ア) [大学編 I 7 試験について](#) [1] ③追試験 **a～g** の理由で欠席した場合
 - イ) その他、薬学部長が認めた場合
- (7) 再試験料は受験しなかった場合も徴収します。原則、いったん納付した受験料は返還することができません。

[4] 再々試験・期間外再々試験

- (1) 再試験の評価が「F」の場合は、原則としてその科目は次年度再履修となります。ただし、次年度の再履修が不可能な場合、必修科目に限り、次年度に再試験に対する再試験（以下、再々試験）の受験が認められます。再々試験の受験が認められた場合、履修登録は履修支援センターで行います。
- (2) 再々試験料は1科目につき3,000円です。原則学納金口座から引き落としとなります（前期は9月、後期は3月）。ただし、期日までに再々試験辞退願を履修支援センターへ提出することにより、受験を辞退することができ、再試験料の支払いが免除されます。
- (3) 再々試験を次の理由により欠席した場合、履修支援センターに必要な証明書を提出し手続きをすることにより、追試験の受験が認められます。この場合、欠席事由解消後3日以内（最終日が休日の場合、その翌日）に履修支援センターで手続きをしてください。
 - ア) 学校保健法施行規則第19条に規定されている伝染病に感染または感染の疑いがある場合
 - イ) 忌引きの場合－忌引きは二親等までとし、履修要覧に示された日数が限度です。
- (4) 期間外再々試験とは、再試験期間より前に実施する試験です。前期科目は、10月～1月、後期科目は、次年度4月～7月に行われます。試験日時等、詳細については授業担当者から指示があります。期間外再々試験料は1科目につき3,000円です。原則学納金口座から引き落としとなります（前期は9月、後期は3月）。ただし、期日までに期間外再々試験辞退願を履修支援センターへ提出することにより、受験を辞退することができ、再試験料の支払いが免除されます。
- (5) 再々試験および期間外再々試験の受験を辞退した者が後に当該科目の単位を修得しようとする場合は、同科目を再履修しなければなりません。
- (6) 再々試験料は受験しなかった場合も徴収します。原則、いったん納付した受験料は返還することができません。

[5] 卒業再試験

- (1) 卒業年度に限り、各期再試験（前期科目の場合は期間外再々試験を含む）の評価が「F」であった科目（薬学総合演習を除く）は、卒業再試験の対象になります。受験のための手続きがありますので注意してください。卒業再試験については、[大学編 I 7 試験について](#)を参照してください。



※欠席は大学で定めた理由によること。

受験料

受験料 1科目につき3,000円が必要です。

学納金口座から引き落としとなります。(前期は9月、後期は3月)

(注意)追試験の再試験を受験する場合は、証明書自動発行機で受験料を納付してください。

2 進級制限制度について

(1) 各学年において、以下に定めた要件に満たない場合は進級できません。

① 1年次から2年次への進級時：

1年次終了までに修得すべき必修科目のうち、6科目以上未修得のとき。

※共通教育科目：学部編「卒業要件単位数（詳細）」表の必修科目欄において太字で★が記載されている1年次開講科目

※専門教育科目：学部編「薬学科課程表」において太字で★が記載されている1年次開講科目

② 2年次から3年次への進級時：

2年次終了までに修得すべき必修科目のうち、6科目以上未修得のとき。

※共通教育科目：学部編「卒業要件単位数（詳細）」表の必修科目欄において太字で★が記載されている1～2年次開講科目

※専門教育科目：学部編「薬学科課程表」において太字で★が記載されている1～2年次開講科目

③ 3年次から4年次への進級時：

3年次終了までに修得すべき必修科目のうち、6科目以上未修得のとき。

※共通教育科目：学部編「卒業要件単位数（詳細）」表の必修科目欄において太字で★が記載されている科目

※専門教育科目：学部編「薬学科課程表」において太字で★が記載されている1～3年次開講科目

④ 4年次から5年次への進級時：

「事前学習(1)」および「事前学習(2)」の単位が未修得の者、または薬学共用試験に合格とならなかつた者

⑤ 5年次から6年次への進級時：

「実務実習」を除く5年次終了までに修得すべき卒業要件上の科目および単位のうち、6科目以上未修得のとき。

※5年次までに修得すべき卒業要件上必要な共通教育科目および専門教育科目と単位のすべてを指します。

(2) 進級制限を受けた場合、同一学年における在学年数は、通算して3年を超えることができません。ただし、休学期間はこの年数に含まれません。

(3) 進級制限を受け同じ学年に留まる者の在学料は、1年次から各学年次終了までに修得すべき必修科目の不足単位数（5年次から6年次への進級留年時は、5年次終了までに修得すべき卒業要件上の科目および単位数）が9単位以内の場合、授業料の半額相当額とし、10単位以上の場合、授業料及びその他の所定の学納金と同額となります。

3 薬学共用試験について

薬学共用試験とは、**CBT** (Computer-Based Testing) と **OSCE** (Objective Structured Clinical Examination) から構成される試験です。実務実習を行う前に、この両試験に合格しなければなりません。試験日程は履修要覧別冊の教務関係事項スケジュール表で確認してください。

CBT：実務実習に必要な知識を持ち合わせていることを確認する、コンピュータを用いた試験です。共用試験センターサーバに保存されている問題が無作為に選ばれ、インターネットを介して各受験生に送付され、それを受験生が解いていく方式で行われます。問題は310問で、10分野（ヒューマニズム・イントロダクション、物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学、健康と環境、薬と疾病「薬理系」、薬と疾病「薬剤系」、薬と疾病「情報系」、薬学と社会、実務実習事前学習）から出題されます。

OSCE：実務実習に必要な技能・態度を持ち合わせていることを確認する実技試験です。試験は、「患者・来局者応対」、「薬剤の調製（2課題）」、「調剤監査」、「無菌操作の実践」、「情報の提供」の5領域から6課題が出題されます。

薬学共用試験の受験料は以下のとおりです。

受験する試験の種類	CBT	OSCE
本試験とCBT体験受験		26,000円
本試験のみ		24,000円
再試験		24,000円
	12,000円	12,000円

※受験料は2018年度の予定額です。金額は変更になることがあります。

※追試験については、受験料は徴収されません。

※本試験とCBT体験試験の受験料は12月に学納金口座から引き落としとなります。

※再試験の受験料は3月に学納金口座から引き落としとなります。

※未受験の場合でも受験料は返還されません。

4 実務実習について

(1) 実務実習は学外の医療施設で行う実習です。病院における実習と薬局における実習を各11週間ずつ、合計22週間行います。実務実習では、主に薬剤師として必要な知識、技能、態度を医療現場で学びます。

(2) 実務実習を履修するためには以下の要件を満たす必要があります。

①薬学共用試験合格

②「事前学習(1)」および「事前学習(2)」の単位修得

5 ホワイトコートセレモニーについて

薬学共用試験（CBT と OSCE）および実務実習事前学習の科目を修得した学生は、ホワイトコートセレモニーへの出席を許可され、実務実習参加の認証を受けることができます。セレモニーは、学部長が真新しい白衣を壇上で手渡し、宗教主事が聖書を読み、祈りを捧げることで厳粛かつ整然と行われます。セレモニーの目的は、医療現場にでるためのモチベーションの高揚と倫理・道徳意識の向上、そして医療チームの一員として白衣を着用することの重みと意義について認識させることにあります。

6 薬学総合演習について

薬学総合演習とは、薬学科のディプロマポリシーのもとに、薬学における知識・技能・思考力・実践力・コミュニケーション力について、それぞれの専門科目別に 6 年間の総復習を行う授業です。薬学総合演習の試験は原則として追試験および卒業再試験の対象となりません。試験日程の詳細や成績評価基準については、別途お知らせします。

1 科目分類番号について

科目分類番号は数字3桁でカリキュラムにおける当該科目の位置づけを示したものです。
履修の際の参考にしてください。



学部学科コード

- 共通教育：10
- 薬学部薬学科：71

科目レベル

- 入門：1 科目内容レベルが導入もしくは入門に位置づけられる科目
- 基礎：2 主に基礎として学ぶべき科目等
- 発展：3 応用や発展の内容を含む科目等

※科目分類番号と開講基準年次は違います。例えば3桁目のレベルが3に設定されていても、開講基準年次が1年次に設定されれば1年生でも履修できます。反対にレベルが1や2に設定されていても開講基準年次が3年次になっていれば1・2年生は履修することができません。

1 共通教育科目等 課程表

科目名の★は必修、■は選択必修

I 建学の精神を学ぶ科目（金城アイデンティティ科目）

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数					
				1年	2年	3年	4年	5年	6年
① キリスト教	キリスト教学(1)★	建学の精神であるキリスト教と聖書の世界について学ぶ	101	2					
	キリスト教学(2)★		101	2					
	聖書の読み方■	「聖書」の執筆者、書かれた目的、内容を学ぶ	101	2					
	聖書の女性観■	聖書における女性の描き方を通して女性観を学ぶ	101	2					
	キリスト教と日本■	日本におけるキリスト教の歴史と現代事情を学ぶ	101	2					
	現代世界とキリスト教■	世界各地域のキリスト教事情を学ぶ	101	2					
	医療とキリスト教精神■	医療従事者から医療とキリスト教の精神の関係を学ぶ	101	2					
	福祉とキリスト教■	福祉の各分野とキリスト教の関わりについて学ぶ	101	2					
	キリスト教文化学入門■	中世のキリスト教が生み出した祝祭日の歴史を学ぶ	101	2					
	音楽とキリスト教■	理論・解説と実践・歌唱により、賛美歌を多面的に学ぶ	101	2					
	美術とキリスト教■	キリスト教と西洋美術の関わりについて学ぶ	101	2					
	文学とキリスト教■	文学への影響、また聖書の邦訳の問題について学ぶ	101	2					
	いのち・こころ■	誕生から死まで、困難をバネに積極的に生きることを考える	101	2					
② 女性	歴史の中の女性■	19世紀の英国と米国の歴史に登場する女性について学ぶ	101	2					
	世界の女性問題■	国際社会における女性の人権について考える	101	2					
	福祉と女性■	女性が抱える社会福祉の問題を通して生き方を考える	101	2					
	女性と文学■	文学や映画に登場する女性を新たな視点から考察する	101	2					
	男女共同参画社会■	従来の男女観、国際比較等から日本女性の状況を考える	101	2					
	性差の科学■	ジェンダーと人間行動・偏見・コミュニケーションを学ぶ	101	2					

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数				
				1年	2年	3年	4年	5年
③国際理解	現代世界の形成 ■	第二次世界大戦後の世界と今日の国際情勢について学ぶ	101	2				
	世界の多様な文化 ■	異なる地域に住む人々の社会や文化、宗教的背景を学ぶ	101	2				
	世界の社会問題 ■	日本を取り巻く国際情勢とその問題について学ぶ	101	2				
	多文化共生社会 ■	多民族・多文化共生社会の実現について考える	101	2				
	Topics in Comparative Culture ■	外国と比較した日本文化を基本的な英語で学ぶ	101	2				
	英語圏の生活と文化 ■	英語圏の地理、歴史、文化、生活について学ぶ	101	2				
	ヨーロッパの生活と文化 ■	今日のヨーロッパ社会とそこで暮らす人々について学ぶ	101	2				
	アジアの生活と文化 ■	中国、日本、朝鮮半島の生活や文化からその影響と交流を学ぶ	101	2				
	異文化コミュニケーション ■	異文化間で起こる様々な問題を解決する能力を培う	101	2				
	海外留学準備講座 ■	留学への心構えや留学先の文化・社会的背景を学ぶ	101	1				

II 現代社会の教養の基礎となる科目

*「大学での学び」は高大接続連携授業において履修する科目であり、入学後の履修はできません。

科目 区分	授 業 科 目	副 題 ・ 内 容	科 目 分 類 番 号	開講基準年次及び単位数					
				1年	2年	3年	4年	5年	6年
A · Life ④教養科目	東 洋 哲 学 ■	現代日本と東洋の伝統思想	101	2					
	西 洋 哲 学 ■	生きることを考える哲学	101	2					
	倫 理 学 ★	現代社会における倫理	101	2					
	い の ち の 倫 理 ■	いのちを生かす倫理学	101	2					
	健 康 科 学 ■	健康管理のキーポイントを探る	101	2					
	心 理 学 ★	こころの動きを理解する	101	2					
	人 間 発 達 学 ■	発達の筋道を学ぶ	101	2					
	カウンセリング入門 ■	心の問題理解とその援助法	101	2					
	ロジカルシンキング入門 ■	問題解決の方法を考える	101	2					
	教 職 入 門 ■	教職の意義と役割を理解する	101	2					
	学校と教育の歴史 ■	教育の歴史と思想を探る	101	2					
	発 達 と 学 習 ■	子どもの発達と学習過程を捉える	101	2					
	教 育 相 談 ■	学校における心のケアを考える	101	2					
	大学での学び ■ ※履修不可	高大接続連携授業	-	1					
B · Nature	生 命 科 学 ■	いのちの謎にせまる	101	2					
	生 物 学 ■	動物の行動を科学する	101	2					
	環 境 学 ■	環境問題入門	101	2					
	薬 学 薬学科は履修不可	くすりと体を科学する	101	2					
	健康とサプリメント	サプリメント利用の豆知識	101	2					
	化粧品学入門 薬学科は履修不可	化粧品まるわかり	101	2					
	食 品 栄 養 学 ■	食品の栄養素を学ぶ	101	2					
	生 活 と 科 学 ■	生活習慣(生活環境)と病気の関係を知る	101	2					
	生 活 と 衣 服 ■	衣服まるわかり	101	2					
	生 活 と 住 ま い ■	住まい方を考える	101	2					
	数 学 ■	数学基礎入門	101	2					
	統 計 学 ■	統計まるわかり	101	2					
	情 報 学 ■	情報まるわかり	101	2					

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数					
				1年	2年	3年	4年	5年	6年
④教養科目 C・Culture	文化人類学 ■	人類の多様な生活と文化	101	2					
	日本文化論 ■	サブカルチャーから学ぶ日本文化	101	2					
	日本文学論 ■	「少女」の眼から見る近現代日本文学	101	2					
	日本史入門 ■	エピソードで学ぶ日本史	101	2					
	日本地理 ■	47都道府県を探訪する	101	2					
	日本語学 ■	日本語を振り返ってみよう	101	2					
	実践日本語 ■	文章と文書の書き方	101	2					
	日本美術史 ■	日本美術鑑賞入門	101	2					
	Topics in Contemporary Japan ■	英語で学ぶ現代日本の諸問題	101	2					
	西洋文学論 ■	西洋文学に見るロマンス	101	2					
	西洋史入門 ■	エピソードで学ぶ西洋史	101	2					
	西洋美術史 ■	西洋美術鑑賞入門	101	2					
D・Society	ファンクションの歴史 ■	デザインの変遷とビジネスの関係	101	2					
	美術創作 ■	静物デッサン入門	101	1					
	法学入門 ★	法律と人権を学ぶ	101	2					
	日本国憲法 ■	憲法を理解する	101	2					
	政治学入門 ■	政治の仕組みを知る	101	2					
	行政学入門 ■	行政と公務員の役割を学ぶ	101	2					
	経済学入門 ■	お金の動きを知る	101	2					
	経営学入門 ■	ビジネスの基礎を学ぶ	101	2					
	マーケティング入門 ■	ヒット商品のつくり方を学ぶ	101	2					
	消費者と市民社会 ■	消費行動を通して社会を変える	101	2					
④教養科目 S・Society	社会学入門 ■	社会を見る目を養う	101	2					
	名古屋学 ■	名古屋の魅力を発見する	101	2					
	平和学入門 ■	半径2メートルから平和を考える	101	2					

III 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目

※修得単位について…⑤英語教育科目における英語コミュニケーションE～G、実践ビジネス英語A～E、海外ビジネス研修の修得単位については、自由履修の単位に含まれます。

⑥外国語教育科目における、英語英米文化学科生の必要最低修得単位（8単位）を越えて修得した単位については、自由履修の単位に含まれます。

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数					
				1年	2年	3年	4年	5年	6年
⑤英語教育科目	英語コミュニケーションA(1) ★	Speaking・Writing	101	1					
	英語コミュニケーションA(2) ★	Speaking・Writing	101	1					
	英語コミュニケーションB(1) ★	CALL・Reading	101	1					
	英語コミュニケーションB(2) ★	CALL・Reading	101	1					
	英語コミュニケーションC(1) ★	Speaking・Presentation	102		1				
	英語コミュニケーションC(2) ★	Speaking・Presentation	102		1				
	英語コミュニケーションD(1) ★	Reading・Listening	102		1				
	英語コミュニケーションD(2) ★	Reading・Listening	102		1				
	英語コミュニケーションE(1) ※	Integrated English (総合英語)	103		1				
	英語コミュニケーションE(2) ※	Integrated English (総合英語)	103		1				
	英語コミュニケーションF ※	検定試験対策 (TOEIC対策)	103		1				
	英語コミュニケーションG ※	検定試験対策 (TOEIC対策)	103		1				
	実践ビジネス英語 A 選抜者以外は履修不可	TOEIC L&R 550 以上を目指す	103	1					
	実践ビジネス英語 B 選抜者以外は履修不可	TOEIC L&R 600 以上を目指す	103	1					
	実践ビジネス英語 C 選抜者以外は履修不可	TOEIC L&R 650 以上を目指す	103		1				
	実践ビジネス英語 D 選抜者以外は履修不可	TOEIC L&R 700 以上を目指す	103			1			
	実践ビジネス英語 E 選抜者以外は履修不可	英語のレポート作成方法を学ぶ	103				1		
	海外ビジネス研修 選抜者以外は履修不可	カナダでビジネスコミュニケーションを学ぶ	103		1				
⑥外国語教育科目	ドイツ語 (1) ■	初級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1					
	ドイツ語 (2) ■	初級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1					
	ドイツ語 (3) ■	中級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1				
	ドイツ語 (4) ■	中級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1				

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数					
				1年	2年	3年	4年	5年	6年
⑥外国語教育科目	ドイツ語会話(1)	■初級1(主として外国人教員による会話の授業)	101	1					
	ドイツ語会話(2)	■初級2(主として外国人教員による会話の授業)	101	1					
	ドイツ語会話(3)	■中級1(主として外国人教員による会話の授業)	102		1				
	ドイツ語会話(4)	■中級2(主として外国人教員による会話の授業)	102		1				
	フランス語(1)	■初級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1					
	フランス語(2)	■初級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1					
	フランス語(3)	■中級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1				
	フランス語(4)	■中級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1				
	フランス語会話(1)	■初級1(主として外国人教員による会話の授業)	101	1					
	フランス語会話(2)	■初級2(主として外国人教員による会話の授業)	101	1					
	フランス語会話(3)	■中級1(主として外国人教員による会話の授業)	102		1				
	フランス語会話(4)	■中級2(主として外国人教員による会話の授業)	102		1				
	スペイン語(1)	■初級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1					
	スペイン語(2)	■初級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1					
	スペイン語(3)	■中級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1				
	スペイン語(4)	■中級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1				
	スペイン語会話(1)	■初級1(主として外国人教員による会話の授業)	101	1					
	スペイン語会話(2)	■初級2(主として外国人教員による会話の授業)	101	1					
	スペイン語会話(3)	■中級1(主として外国人教員による会話の授業)	102		1				
	スペイン語会話(4)	■中級2(主として外国人教員による会話の授業)	102		1				
	中国語(1)	■初級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1					
	中国語(2)	■初級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1					
	中国語(3)	■中級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1				
	中国語(4)	■中級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1				
	中国語会話(1)	■初級1(主として外国人教員による会話の授業)	101	1					
	中国語会話(2)	■初級2(主として外国人教員による会話の授業)	101	1					
	中国語会話(3)	■中級1(主として外国人教員による会話の授業)	102		1				
	中国語会話(4)	■中級2(主として外国人教員による会話の授業)	102		1				

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数					
				1年	2年	3年	4年	5年	6年
⑥ 外国語教育科目	韓国・朝鮮語(1) ■	初級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1					
	韓国・朝鮮語(2) ■	初級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1					
	韓国・朝鮮語(3) ■	中級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1				
	韓国・朝鮮語(4) ■	中級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1				
	韓国・朝鮮語会話(1) ■	初級1(主として外国人教員による会話の授業)	101	1					
	韓国・朝鮮語会話(2) ■	初級2(主として外国人教員による会話の授業)	101	1					
	韓国・朝鮮語会話(3) ■	中級1(主として外国人教員による会話の授業)	102		1				
	韓国・朝鮮語会話(4) ■	中級2(主として外国人教員による会話の授業)	102		1				
⑦ 情報教育科目	情報リテラシー★	コンピュータ力を身につける	101	2					
	IT活用A ■	3次元コンピュータ・グラフィックス	102	2					
	IT活用B ■	動画作成編集	102	2					
	IT活用C ■	プログラミング入門	102	2					
	IT活用D ■	Webページデザイン	102	2					
	IT活用E ■	コンピュータ統計入門	102	2					
	IT活用F ■	デスクトップ・パブリッシング	102	2					
	IT活用G ■	コンピュータ・デザイン	102	2					
	IT活用H ★	コンピュータと薬学	102	2					
⑧ キャリア開発教育科目	キャリア開発A	キャリア開発の意義と方法	101	2					
	キャリア開発B	マナー&コミュニケーション	101	1					
	キャリア開発C ■	自分らしい生き方を設計する	102		2				
	キャリア開発D ■	いきいき働く女性たち	102		2				
	キャリア開発E ■	大企業のトップに学ぶキャリアの本当の意味	103			2			
	キャリア開発F ■	将来の職業生活に備える	103			2			
	キャリア開発G(1) ■	インターンシップ準備	102		2				
	キャリア開発G(2) ■	インターンシップ	103			2			

IV スポーツを通じて健康増進を図る科目

※修得単位について…⑨S & E教育科目における「スポーツ・アンド・エクササイズH」の修得単位については、自由履修の単位に含まれます。

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号					
			1年	2年	3年	4年	5年	6年
⑨ S & E 教育科目	スポーツ・アンド・エクササイズA ■	テニス	101	1				
	スポーツ・アンド・エクササイズB ■	ゴルフ	101	1				
	スポーツ・アンド・エクササイズC ■	バドミントン	101	1				
	スポーツ・アンド・エクササイズD ■	卓球	101	1				
	スポーツ・アンド・エクササイズE ■	バレー・ポール	101	1				
	スポーツ・アンド・エクササイズF ■	ライトスポーツ	101	1				
	スポーツ・アンド・エクササイズG ■	野外スポーツ実習	101	1				
	スポーツ・アンド・エクササイズH ※	ヘルシーエクササイズ	102			1		

V 実践から学ぶ科目

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号					
			1年	2年	3年	4年	5年	6年
⑩ 海外研修科目	海外研修 A ■	北米での学習プログラム	103	2				
	海外研修 B ■	イギリスでの学習プログラム	103	2				
	海外研修 C ■	オーストラリアでの学習プログラム	103	2				
	海外研修 D ■	中国での学習プログラム	103	2				
	海外研修 E ■	海外のあらゆる地域での学習プログラム	103	2				
⑪ 学生プロジェクト科目	キャリアプロジェクト ■	社会に参加する	103	2				
	里山プロジェクト ■	里山から見る日本の姿	103	2				
	KIDSセンタープロジェクト ■	KIDSセンター活動に参加する	103	2				
	ボランティアプロジェクト ■	ボランティアを実践する	103	2				
	公募プロジェクト ■	慰問演奏を行おう	103	2				

教職に関する科目（中・高・栄養免許）

授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
教職入門	101	2					
学校と教育の歴史	101	2					
発達と学習	101	2					
教育制度論	102		2				
障害者教育論	102		2				
教育課程論	102			2			
国語科指導法 A	102		4				
国語科指導法 B	102			2			
国語科指導法 C	102			2			
英語科指導法 A	102		4				
英語科指導法 B	102			2			
英語科指導法 C	102			2			
家庭科指導法 A	102		4				
家庭科指導法 B	102			2			
家庭科指導法 C	102			2			
社会科・地理歴史科指導法 A	102		2				
社会科・地理歴史科指導法 B	102			2			
社会科・公民科指導法 A	102		2				
社会科・公民科指導法 B	102			2			
情報科指導法	102		4				
福祉科指導法	102		4				
書道科指導法	102		4				
音楽科指導法 A	102		4				
音楽科指導法 B	102			2			
音楽科指導法 C	102			2			

授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
理科指導法 A	102		4				
理科指導法 B	102			2			
理科指導法 C	102			2			
道徳教育の理論と方法	102			2			
特別活動の指導法	102			2			
教育方法の理論と実践	102		2				
教育の方針と技術 (情報機器及び教材の活用を含む)	102		2				
生徒指導の理論と方法	102			2			
教育相談	101	2					
教育実習 A	103						5
教育実習 B	103						3
教職実践演習(中高)	103						2
教職実践演習(栄養教諭)	103				2		

日本語科目・日本事情に関する科目

外国人留学生以外、履修不可

科目区分	授業科目	科目分類番号	単位数
日本語科目	日本語 2 1 1	102	1
	日本語 2 1 2	102	1
	日本語 2 1 3	102	1
	日本語 2 1 4	102	1
	日本語 2 1 5	102	1
	日本語 2 2 1	102	1
	日本語 2 2 2	102	1
	日本語 2 2 3	102	1
	日本語 2 2 4	102	1
	日本語 2 2 5	102	1
	日本語 3 1 1	103	1
	日本語 3 1 2	103	1
	日本語 3 1 3	103	1
	日本語 3 1 4	103	1
	日本語 3 1 5	103	1
	日本語 3 2 1	103	1
	日本語 3 2 2	103	1
	日本語 3 2 3	103	1
	日本語 3 2 4	103	1
	日本語 3 2 5	103	1
	日本語 4 1 1	103	1
	日本語 4 1 2	103	1
	日本語 4 2 1	103	1
	日本語 4 2 2	103	1

科目区分	授業科目	科目分類番号	単位数
日本事情に関する科目	日本事情 A	102	2
	日本事情 B	102	2
	日本事情 C	102	2
	日本事情 D	102	2
	インディペンデント・スタディ	103	2

1 カリキュラム・ツリー

カリキュラム・ツリーとは、専門教育科目のカリキュラムにおいて、学生が卒業までに身につけるべき知識・能力を得るために授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性を系統的に可視化したものです。カリキュラムの年次進行、授業科目間のつながりなど、カリキュラムの体系性が一望できるようになっています。

薬学科

青字は必修科目

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
基礎薬学分野	共通系 薬学概論(1)・(2)		薬学英語(1)・(2)	実用薬学英語		
	化学系 基礎化学(1)・(2) 有機化学(1)	有機化学(2)・(3) 生薬学(1)・(2)	有機化学(4) 医薬品化学(1) 薬用資源学	医薬品化学(2) 構造解析学		
	物理系 分析化学(1)	薬品物理化学 分析化学(2)	薬品分析学	機器分析学 放射薬学		
	生物系 基礎生物学 機能形態学(1)・(2) 生化学(1)	機能形態学(3) 生化学(2)・(3)	微生物学 免疫学 分子生物学 生理化学	感染症学 ゲノム薬学 バイオテクノロジー		
衛生薬学分野	環境科学	衛生化学(1) 環境衛生学 香粧品科学A	衛生化学(2) 食品衛生学 臨床栄養化学 香粧品科学B 化粧品学	公衆衛生学 サプリメント開発概論		
医療薬学分野		医用統計学 薬理学(1) 製剤学(1) 医薬品情報学(1)	薬理学(2)～(4) 製剤学(2) 薬物動態学 生物薬剤学 医薬品情報学(2) 漢方概論 病理学 応用薬学	医療薬学 A・B 薬物治療学 A・B 薬事関係法規・制度 疾病と病態 臨床化学 看護学総論 医療倫理 コミュニケーション技法 医療検査概論		臨床薬物治療学 社会薬学 緩和医療入門
実習科目		化学系実習(1)・(2) 生物系実習(1)・(2)	物理・分析系実習 衛生化学系実習 薬理系実習 薬剤・製剤系実習		実務実習	
セミナー・演習	薬学セミナー(1)・(2) 薬学PBL(1)・(2) 基礎薬学演習A・B	薬学セミナー(3)・(4)	薬学セミナー(5)・(6) 薬学TBL 薬学計算演習	薬学CBL 薬学演習 事前学習(1) 事前学習(2)		薬学総合演習
卒業研究					卒業研究	
資格関連科目	基礎物理学		地学 地学実習			

2 薬学科 課程表

科目名の★は必修、☆は選択必修

基礎科目		授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数					
基礎科目 必修16単位				1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学概論(1)★	711	1							
薬学概論(2)★	711	1							
基礎化学(1)★	711	1							
基礎化学(2)★	711	1							
基礎生物学	711	1							
有機化学(1)★	712	1							
有機化学(2)★	712		1						
薬品物理化学	712		1						
機能形態学(1)★	712	1							
機能形態学(2)★	712	1							
機能形態学(3)★	712		1						
生化学(1)★	712	1							
生化学(2)★	712		1						
環境科学	712	1							
分析化学(1)★	712	1							
分析化学(2)★	712		1						

基礎科目		授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数					
基礎科目 必修31単位				1年	2年	3年	4年	5年	6年
有機化学(3)★	712		1						
有機化学(4)★	712			1					
生化学(3)★	712		1						
衛生化学(1)★	712		1						
衛生化学(2)★	712			1					
微生物学	712			1					
免疫学	712				1				
応用薬学	712					1			
医用統計学	712						1		
公衆衛生学	712							1	
薬理学(1)★	712					1			
薬理学(2)★	712						1		
薬理学(3)★	712						1		
薬理学(4)★	712							1	
製剤学(1)★	712				1				
製剤学(2)★	712					1			
薬物動態学	712						1		
生物薬剤学	712							1	
医療薬学A	712							1	
医療薬学B	712								1
生薬学(1)★	712					1			
生薬学(2)★	712						1		
薬用資源学	712							1	
医薬品化学(1)★	712							1	
医薬品化学(2)★	712								1
薬物治療学A	712								1
薬物治療学B	712								1
薬事関係法規・制度	712								1
香粧品科学A	712					1			
医薬品情報学(1)★	712						1		
医薬品情報学(2)★	712							1	

基礎科目		授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数					
基礎科目 必修31単位				1年	2年	3年	4年	5年	6年
有機化学(3)★	712		1						
有機化学(4)★	712			1					
生化学(3)★	712		1						
衛生化学(1)★	712		1						
衛生化学(2)★	712			1					
微生物学	712				1				

展開科目		科目 分類 番号	展開科目 必修23単位 選択必修 2 単位					
			1年	2年	3年	4年	5年	6年
環 境 衛 生 学 ★	712			1				
食 品 衛 生 学 ★	712				1			
分 子 生 物 学 ★	712				1			
生 理 化 学 ★	712				1			
漢 方 概 論 ★	712				1			
病 理 学 ★	712				1			
薬 品 分 析 学 ★	712				1			
薬 学 英 語 (1) ★	712				1			
薬 学 英 語 (2) ★	712				1			
機 器 分 析 学 ★	712					1		
構 造 解 析 学 ★	712					1		
放 射 薬 学 ★	712					1		
感 染 症 学 ★	712					1		
疾 病 と 病 態 ★	712					1		
臨 床 化 学 ★	712					1		
看 護 学 総 論 ★	712					1		
医 療 倫 理 ★	712					1		
コ ミュニケーション技法 ★	712					1		
ゲ ノ ム 薬 学 ★	712					1		
臨 床 薬 物 治 療 学 ★	712						1	
医 療 検 査 概 論 ★	712					1		
社 会 薬 学 ★	712						1	
緩 和 医 療 入 門 ★	712						1	
実 用 薬 学 英 語 ★	713					1		
バイオテクノロジー ★	713					1		
臨 床 栄 養 化 学 ★	713					1		
サ プ リ メ ン ト 開 発 概 論 ★	713					1		
香 精 品 科 学 B ★	713					1		
化 精 品 学 ★	713					1		

実習科目		科目 分類 番号	実習科目 必修28単位					
			1年	2年	3年	4年	5年	6年
化 学 系 実 習 (1) ★	712			1				
化 学 系 実 習 (2) ★	712			1				
生 物 系 実 習 (1) ★	712			1				
生 物 系 実 習 (2) ★	712			1				
物 理 ・ 分 析 系 実 習 ★	712				1			
衛 生 化 学 系 実 習 ★	712				1			
薬 理 系 実 習 ★	712				1			
薬 剤 ・ 製 剤 系 実 習 ★	712				1			
実 務 実 習 ★	713						20	

演習科目		科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数					
演習科目 必修41単位			1年	2年	3年	4年	5年	6年
授業科目								
薬学セミナー(1) ★	711	1						
薬学セミナー(2) ★	711	1						
薬学セミナー(3) ★	712		2					
薬学セミナー(4) ★	712		2					
薬学セミナー(5) ★	712			2				
薬学セミナー(6) ★	712			1				
薬学PBL(1) ★	711	2						
薬学PBL(2) ★	711	2						
薬学TBL ★	712			1				
薬学CBL ★	713				1			
基礎薬学演習A ★	711	1						
基礎薬学演習B ★	711	1						
薬学計算演習 ★	712			1				
薬学演習 ★	712				4			
事前学習(1) ★	712				8			
事前学習(2) ★	712				2			
薬学総合演習 ★	713						9	

卒業研究		科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数					
卒業研究 必修10単位			1年	2年	3年	4年	5年	6年
授業科目								
卒業研究 ★	713							10

資格関連科目		科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数					
授業科目			1年	2年	3年	4年	5年	6年
授業科目								
基礎物理学	711	1						
地 学	712				1			
地学実習	712				1			

1 中高免教職課程について

[1] 教職課程とは？

中学校や高校で授業を行うためには教員免許状が必要です。その取得のために必要な科目を開講し、教職課程を設けています。教育職員免許法や教育職員免許法施行規則等に定められた単位を修得することで、卒業時に教員免許状を取得できます。

教職に関心がある学生は、1年次から「教科に関する科目」と「教職に関する科目」を履修してください。教職課程の申し込みは2年生の秋、教育実習の申し込みは3年生（薬学部は5年生）の春に行います。自信を持って教えられるように、教科と教職の両方の専門性を伸ばす努力をしてください。

本学の中高免教職課程を履修することにより授与される免許状の種類等は、次の通りです。私たち、中高免教職課程担当教員、職員は金城学院大学卒業生が一人でも多く、教育現場の教壇に立つことを願っています。

学 部	学 科	免許状の種類	免許教科
文学部	日本語日本文化学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国 語 国 語 書 道
	英語英米文化学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英 語 英 語
	外国語コミュニケーション学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英 語 英 語
	音楽芸術学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	音 楽 音 楽
生活環境学部	生活マネジメント学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家 庭 家 庭 情 報
	環境デザイン学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家 庭 家 庭
	食環境栄養学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家 庭 家 庭
国際情報学部	国際情報 学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社 会 地理歴史 公 民
		高等学校教諭一種免許状	情 報
人間科学部	現代子ども学科	中学校教諭一種免許状	英 語
	多元心理学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社 会 公 民
	コミュニティ福祉学科	高等学校教諭一種免許状	福 祉
薬学部	薬学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	理 科 理 科

[2] 教職課程の履修に必要な単位

教育職員免許状を取得するためには、基礎資格として学士の資格を有することが必要です。つまり、所定の単位を修得して本学を卒業することが前提となります。

その上で、教職課程の履修には教育職員免許法施行規則に定める、次の4種類の科目の修得が必要です。最低修得単位数は教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位数であり、本学で修得しなければならない単位数については後掲の表を参照してください。

免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	
	中一種	高一種
①教科に関する科目	2 0	2 0
②教職に関する科目	3 1	2 3
③教科又は教職に関する科目	8	1 6
④教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	8	8
合 計	6 7	6 7

1) 教科に関する科目

薬学科

中一種免「理科」
高一種免「理科」

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する開設授業科目、開講基準年次及び単位数		
科 目	単位数	必修科目		選択科目
物理学		基礎物理学 1年 1		
		薬品物理化学 2年 1		
		機器分析学 4年 1		
物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)		物理・分析系実習 3年 1		
化学		基礎化学(1) 1年 1		
		基礎化学(2) 1年 1		
		有機化学(1) 1年 1		
		有機化学(2) 2年 1		
		有機化学(3) 2年 1		
		衛生化学(1) 2年 1		
		有機化学(4) 3年 1		
		医薬品化学(1) 3年 1		
		衛生化学(2) 3年 1		
		医薬品化学(2) 4年 1		
		公衆衛生学 4年 1		
化学実験 (コンピュータ活用を含む。)	20	化学系実習(1) 2年 1		
		化学系実習(2) 2年 1		
		衛生化学系実習 3年 1		
生物学		基礎生物学 1年 1		
		生化学(1) 1年 1		
		機能形態学(2) 1年 1		
		生化学(2) 2年 1		
		機能形態学(3) 2年 1		
		分子生物学 3年 1		
		微生物学 3年 1		
		免疫学 3年 1		
生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)		生物系実習(1) 2年 1		
		生物系実習(2) 2年 1		
地学		地学 3年 1		
地学実験 (コンピュータ活用を含む。)		地学実習 3年 1		

2) 教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数						履修方法
科 目	左項の各科目に含めることが必要な事項	単位数		1年	2年	3年	4年	5年	6年	
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職入門	2						必修
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	学校と教育の歴史	2						必修
	・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある児童、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)		発達と学習	2						必修
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育制度論 障害者教育論	2						必修 選択
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	中12 高 6	教育課程論		2					必修
	・各教科の指導法		理科指導法A	4						必修
	・道徳の指導法		理科指導法B		2					選択必修
	・特別活動の指導法		理科指導法C		2					選択必修
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		道徳教育の理論と方法 特別活動の指導法 教育方法の理論と実践 教育の方法と技術（情報機器及び教材の活用を含む）	2						※2 必修 必修
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法		生徒指導の理論と方法		2					必修
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2						必修
教育実習	中5 高3	教育実習A 教育実習B						5 3		選択必修 ※3
教職実践演習	2	教職実践演習（中高）						2		必修

備考 1：教育実習の履修以前に、教育実習を除く教職に関する科目の必修科目を履修しておくこと（「教職実践演習」を除く）。後述〔3〕(8)を参照してください。

2：※1は、取得希望する免許教科の「××科指導法」を履修方法に従い、中一種においては6単位、高一種においては4単位（後述〔3〕(8)を参照してください。）を必修。他の免許教科の「××科指導法」を「教職に関する科目」として使用することはできません。

3：※2は、中一種においては必修、高一種においては選択。

4：※3は、後述の〔3〕を参照してください。

3) 教科又は教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等	単位数	左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数						履修方法
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	
教科又は教職に関する科目	高16	道徳教育の理論と方法			2				備考 2
	中8	情報教育論		2					

備考 1 : 教育職員免許法施行規則で定められた、免許状取得に必要な最低修得単位数を超えて修得した「教職に関する科目」と「教科に関する科目」の単位は、「教科又は教職に関する科目」の単位として使用することができます。ただし、他の免許教科のために設けられている「教科に関する科目」と「教職に関する科目」の単位は、「教科又は教職に関する科目」の単位に使用することはできません。

2 : 「道徳教育の理論と方法」は、高一種においては、選択。中一種においては、「教科又は教職に関する科目」として使用することはできません。

4) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等	単位数	左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数						履修方法
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	
・日本国憲法	2	日本国憲法	2						必修
・体育	2	健康科学	2						必修
		スポーツ・アンド・エクササイズA	1						
		スポーツ・アンド・エクササイズB	1						
		スポーツ・アンド・エクササイズC	1						
		スポーツ・アンド・エクササイズD	1						
		スポーツ・アンド・エクササイズE	1						
		スポーツ・アンド・エクササイズF	1						
・外国語コミュニケーション	2	スポーツ・アンド・エクササイズG	1						
		英語コミュニケーションA(1)	1						必修
・情報機器の操作	2	英語コミュニケーションA(2)	1						必修
		情報リテラシー	2						必修

[3] 教育実習

教職に関する科目の一つである教育実習は、教育現場における体験を通じて、教育についての深い理解と強い熱意をつちかい、真にぎり教育者としての素地をつくることを目的として行われます。実習生は、実際に教壇に立つとともに、生徒へのさまざまな指導、学級の経営と管理、校務などの実習を行います。

教育実習に関しては、次の点に注意してください。

- (1) 中学校免許取得のためには、「教育実習A」 5 単位（実習は原則として 3 週間 4 単位と事前・事後指導 1 単位）、高等学校免許取得のためには、「教育実習B」 3 単位（実習 2 週間 2 単位と事前・事後指導 1 単位）または「教育実習A」のいずれかの履修が必要です。
- (2) 実習先は、原則として中学校または高等学校、あるいはその両方です。いずれの場合も、本学で取得できる中学校・高等学校のすべての免許に有効です。
- (3) 複数の教科の免許を取得しようとする場合にも、実習はいずれかの教科で 1 回行えば十分です。
- (4) 教育実習は、実習校の協力を得て行われるもので、実習生は、実習校に迷惑をかけることのないよう、しっかりした決意と十分な配慮をもって取り組まなくてはなりません。
- (5) 教育実習に先立って、教育実習申込みオリエンテーションを行います。このオリエンテーションで教育実習についての認識を深め、慎重に検討した上で教育実習を希望する者は、所定の期間内に必要な書類を添えて履修支援センターに申し込んでください。ただし、下記「3. 教職課程委員会が指定する課題に関する条件」の①を満たさない者の教育実習申込みを受け付けることができません。
- (6) 教育実習期間の前後に数回の事前・事後指導を行います。また、教育実習後には、所定のレポートを提出しなければなりません。教育実習の履修には、事前指導・事後指導への出席とレポートの提出も含まれます。
- (7) 教育実習は教員を志す者にのみ認められます。教育実習を希望する者は、教員採用試験（愛知県・名古屋市など）を受験することを原則とします（中学校・高等学校が実施する事前指導で、教員採用試験を受けない学生は実習をとりやめるように言われたケースがあります）。また、教育実習や教員採用試験の時期は企業などへの就職活動の時期と重なりますが、企業などへの就職活動についての配慮はいっさい認められませんので、注意してください。
- (8) 教育実習の際に必要な知識を習得しておくために、教育実習の履修以前に、教育実習を除く「教職に関する科目」の必修科目をすべて履修していかなければなりません（「教職実践演習」を除く）。また、取得希望する免許教科の「○○科指導法」を、中一種においては 6 単位、高一種においては 4 単位を履修していかなければなりません。なお、教育実習への準備を十分に行うために「○○科指導法」が選択必修の場合であっても、全て履修することを強く推奨します。
- (9) 教育実習では実際の授業の場で生徒に指導するため、十分な力量を備えて実習に臨む必要があります。本学では、以下に示す「1. 教職に関する科目に関する条件」「2. 教科に関する科目に関する条件」「3. 課題に関する条件」のすべてを満たす場合に教育実習の履修を認めることにしています。なお、履修カルテ等によって教育実習に向けた準備状況を把握し、学科のアドバイザー教員や教職課程担当教員から、改善を促すことがあります。改善が見られない場合は履修を認めないこともあります。

1. 「教職に関する科目」に関する条件

次のいずれかを満たすこと。

- ① 原則として、教育実習履修前年度終了時までに必修科目をすべて履修し、かつ、18 単位以上取得していること。ただし、「各教科の指導法」に関する科目（○○科指導法）は、教育実習で担当する科目に関するもののみをこの条件の対象科目とする。
- ② キャリアアップ講座が実施する教員採用試験模試の「教職科目」（教職教養等の名称）の試験の得点が 50% 以上の結果を、一度以上得ていること（ただし自宅受験した場合の成績は対象としない）。

* 留学等によって、①の条件を満たすことができない学生は次のように対応する。留学へ行く場合は、4年次（薬学部6年次）卒業までに教職課程に必要な単位をすべて取得できる見込みがある場合にのみ、4年次（薬学部6年次）における教育実習履修を認めることとする。その際、原則として、教育実習履修前年度末までに、教職に関する科目6科目以上を履修し、12単位以上（○○科指導法Aまたは○○科指導法を含む）を取得していることを条件とする。

2. 「教科に関する科目」に関する条件

次のいずれかを満たすこと。

- ① 教育実習前年度終了時点における教育実習で担当する科目の教科に関する科目のGPAが2.5以上であること。
- ② キャリアアップ講座が実施する教員採用試験模試の「専門科目」（教育実習で担当する科目）の得点率が50%以上の結果を一度以上、得ていること（ただし自宅受験した場合の成績は対象としない）。
- ③ 教科の専門的知識・技能があると認められる資格等を取得していること。

英語：英検2級以上、TOEIC500点以上、TOEFL470点以上、またはこれらと同等以上の資格のいずれか

家庭：消費者力検定「応用コース」3級以上

情報：ITパスポート試験、基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、マルチメディア検定エキスパートのいずれかに合格していること

音楽：音楽芸術学科が主催する定期演奏会の出場経験、またはそれと同等以上と認められる演奏会への出場経験

理科：薬学共用試験に合格していること

その他、各学科から提案のあった資格、入賞経験等を有し、大学教職課程委員会が認めた場合。

* 上記1、2の条件は、編入生、科目等履修生に関しては、理科のみ2015年度教育実習から、他の教科は2013年度教育実習から、この条件を適用している。ただし、学内模試を受験できない等の事情がある編入生、科目等履修生は、課題に取り組ませた上で、学力確認試験等を実施して、教育実習履修の可否を判断するものとする。

3. 教職課程委員会が指定する課題に関する条件

- ① 教育実習の申込みに関しては、2年次の3月末に当該学年の秋課題を提出していることを条件とする。
 - ② 教育実習の履修に関しては、3年次（4年次に教育実習を行えない者は教育実習履修前年度）の2月末に3年生の秋課題までの課題のすべてを提出していることを条件とする。
- * ただし、留学する学生、編入生や科目等履修生の課題の内容や提出期限は、時期を考慮して担当教員から指示する。

[4] 「介護等体験」について

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」により、中学校教諭の免許状を取得しようとする場合に、特別支援学校および社会福祉施設等で7日間以上にわたる「介護等体験」を行うことが必要です。大学が斡旋する施設等に行って所定の活動を行う必要があります。大学による斡旋は、3年次に行う予定です。説明会等を2年次から行いますので注意してください。ただし、介護等に関する専門知識等を有する者や障害により介護等体験が困難な者は、免除される場合がありますので、履修支援センターで相談してください。

なお、3年次の夏休みを中心とした時期に介護等体験の予定が入りますが、原則として、正式な授業と認められるもの（例：集中講義、幼稚園教育実習、病院及び薬局実習など）及び、学科の専門領域と密接に関連があり、かつ、教育実習に向けた準備の上でも有益であると考えられる学科主催の公式行事である場合、また、履修要覧で定めている「欠席」とみなさない場合の条件、大学9頁〔5〕②eに該当する可能性があり、「配慮すべき日数」が数日に留まるものの場合には日程調整を行います。日程が明確となっている場合は、所定の期日までに申告してください。

なお、「配慮すべき日数」が数日に留まるもののうち当該学科からの要請によって大学教職課程委員会が承認した場合は、決められた期日までに申し出したことにより日程調整を行うことがあります。学科の行事等が予定されている場合は自学科の教員と自学科担当の教職課程担当教員に相談してください。

ただし、施設や学校の受け入れ側の都合で、希望に添う日程に調整することは保証できませんので、ご承知ください。

〔5〕教職課程関係の連絡とスケジュール

教職課程の履修に関しては、教育実習、介護等体験、教員免許状の申請、各種オリエンテーションなど、さまざまな手続きが必要です。これらについての連絡はK-PORT（学生ポータルサイト）・manaba等によって行いますので、教職課程の履修を希望する者はつねに注意してください。なお、教職課程に関する質問や相談は、履修支援センターで受け付けます。

教職課程に関して、6年間の主なスケジュールは次の通りです。

1年次	4月	教職課程ガイダンス（新入生オリエンテーション内）
2年次	7月 10月	教職課程履修申込みオリエンテーション（履修希望者全員） 介護等体験申込みオリエンテーション（中学校免許状取得希望者）
3年次	4月 7月～ 8月～12月	介護等体験日程調整 介護等体験事前指導（全2回） 介護等体験
4年次	11月 12月	教員採用試験オリエンテーション 学内模試（各自申込） 教員採用試験対策講座
5年次	4月 4月・5月 5月～6月 9月 11月 12月	教育実習履修（次年度）申込みオリエンテーション 学内模試（各自申込） 教育実習希望校への内諾依頼 私学適性検査（各自申込） 教員採用試験オリエンテーション 学内模試（各自申込） 教員採用試験対策講座
6年次	4月～5月 4月・5月 5月中旬 5月～6月 7月上旬 7月中旬 8月 9月 11月 3月（学位記授与式当日）	教育実習事前指導 学内模試（各自申込） 愛知県・名古屋市・岐阜県・三重県教育委員会採用試験説明会 教育実習A（原則として3週間）、教育実習B（2週間） *一部の学校では9月～10月になります 教育実習事後指導：学部別 教員採用試験・一次試験（愛知県・名古屋市他全員受験） 教員採用試験・二次試験（愛知県・名古屋市他） 教員免許状一括申請学内申込み 私学適性検査（各自申込） 教員免許状申請書類記入 免許状交付

<教員採用試験模擬試験>

本学では、中高免教職課程において教育実習を行う者は、教員採用試験を受験することを原則とします。これは教育委員会から、教育実習の受け入れ条件として教員になる希望を持って、採用試験を受験することが条件として示されているためです。この条件は、教育現場において授業を担当する以上、しっかりと専門的な知識技能と教職への希望を持って子どもへの指導にあたって欲しいという教育現場からの声を反映させたものであると本学では理解しています。そのため、4年次12月から6年次5月にかけて、キャリア・アップ講座に設けられている年3回の模擬試験（学内模試）を受験することを推奨しています。教員採用試験は、試験範囲が広く、長期的な展望を持って準備しないと、合格は容易ではありません。長期的な学習計画を立て、模擬試験をペースメーカーとして、教育実習と採用試験に備えてください。

注1) 教員採用試験対策講座受講者は、専門科目の模擬試験が受験できます。詳しくはキャリア・アップ講座の窓口にお問い合わせください。

<教員採用試験>

公立中学校・高等学校の教員採用試験は、毎年夏に行われます。前述のように、本学では、教員採用試験の受験を教育実習を行うための条件にしています。また、多くの教育委員会で、教育実習の期間前や期間中に教員採用試験受験申し込み締め切りを設定しているため、教育実習前に教員採用試験の受験申し込みを済ませてください。なお、私学の教員採用については、応募や試験の形態が様々であるため、私学教員を志す場合は、各自で情報収集をするとともに、各学部・各学科担当の教職課程委員の教員に相談をしてください。

<教員免許状の申請>

教員免許状の申請は、大学が一括して愛知県教育委員会に対して行います。6年次の9月に申請手続きを履修支援センター窓口で行います。なお申請時に手数料が別途必要です。期限内に手続きをしない場合は、一括申請から除外されますので、行事予定やK-PORTを十分に注意し、指示に従ってください。

[6] 課程履修費等について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費等が必要です。課程履修費は、2,500円（5年次後期）、16,600円（6年次前期）です。なお、実習の際には学研災付帯賠償責任保険料210円が必要です。

また、中学校教諭の免許状取得希望者は、介護等体験履修費として10,600円（3年次前期）、実習の際には学研災付帯賠償責任保険料210円が必要です。

徴収方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内致します。

1 薬剤師資格について

薬剤師法第1条に「薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする。」と規定されています。

また、社団法人日本薬剤師会の制定した薬剤師綱領（昭和48年10月制定）に次の通り記載されています。

- ・薬剤師は国から付託された資格に基づき、医薬品の製造・調剤・供給において、その固有の任務を遂行することにより、医療水準の向上に資することを本領とする。
- ・薬剤師は広く薬事衛生をつかさどる専門職としてその職能を発揮し、国民の健康増進に寄与する社会的責任を担う。
- ・薬剤師はその業務が人の生命健康にかかわることに深く思いを致し、絶えず薬学・医学の成果を吸収して、人類の福祉に貢献するよう努める。

〔1〕薬剤師国家試験受験資格について

薬剤師法（昭和35年法律第146号第15条の規定）において、「学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づく大学において、薬学の正規の課程を修めて卒業した者」と定められています。本学の所定の単位を修得し、卒業（3月31日までに卒業見込みを含む）することにより、受験資格を得ることができます。

〔2〕薬剤師国家試験について

薬剤師国家試験は、毎年3月に2日間の日程で実施されています。これまで、北海道、宮城県、東京都、石川県、愛知県、大阪府、広島県、徳島県および福岡県で実施されました。

試験の詳細については、K-PORT等でお知らせします。

〔3〕薬学部を卒業すると得られる資格について

卒業と同時に得られる資格は、前述の薬剤師国家試験受験資格です。また、薬剤師国家試験に合格し薬剤師の免許を取得すれば、申請・届出・任命により、以下の資格が与えられます。

麻薬管理者　毒物劇物取扱責任者　食品衛生管理者　向精神薬取扱責任者

建築物環境衛生管理技術者　水道技術管理者　第一種衛生管理者

薬剤師の免許を取得後、研修・認定試験合格等により、以下の資格が取得できます。

専門薬剤師（がん専門薬剤師、感染制御専門薬剤師、精神科専門薬剤師）

研修認定薬剤師　漢方薬・生薬認定薬剤師



**UNIVERSITY
ACCREDITED**
2015.4~2022.3

本学は、2014年度に実施された公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受けた結果、大学基準に適合しているとの認定を受けました。このマークは、それを証するものです。

公益財団法人大学基準協会とは：

1947年に、「内外の大学に関する調査研究を行い、会員の自主的努力と相互的援助によって、わが国における大学の質的向上を図るとともに、大学教育の国際的協力に貢献することを目的とする。」として創設された、国・公・私立の大学を会員校とする団体で、2015年度現在正会員として352校が加盟しています。

履修要覧

2018年度

2018年4月 発行

編集／発行 金城学院大学履修支援センター

〒463-8521 名古屋市守山区大森二丁目1723番地

T E L (052) 798-0180

URL <http://www.kinjo-u.ac.jp>

薬学部